

## 「徳之島アートプロジェクト」について

### アートで包む奄美の島

太平洋と東シナ海に囲まれ、独自の文化を築いてきた奄美群島にある徳之島。島は孤立しているようなイメージですが、七千もの島々から成る日本列島は、太平洋に浮かぶ多くの島々と同じ海でつながっていることを、わたしたちは忘れがちです。そんな海に抱かれた徳之島に息づく特有の風習や文化、そして守られてきた島の自然を、現代アートを通して見つめなおし、活かすことが徳之島アートプロジェクトの目的です。

人口2万7千人ほどのこの島で、アートの可能性を探究し新たな表現を生み出すためには、まず、今までの「アート」という概念から飛び出さなくてはならないでしょう。徳之島には美術館や博物館はありませんが、目を凝らして見渡してみればアートに通じるものが、あちらこちらに沢山あるように思えます。わたしたちは、目の前の風景、そして身近にある豊かなものを見過ごしてはいないでしょうか。集会場や資料館に展示する作品を発信源として、会場周辺の自然や集落の地形、家々も取り込み、目を向けることで、徳之島そのものが自然と文化が織りなす作品として見えてくるのではないのでしょうか。

島南端、北端、中央の三集落を中心に、アートで島全体を包み込むような試みを展開する芸術祭を開催するとともに、地域文化の発掘と再認識を促すために民俗学や文化人類学的発信を活動の主要な軸としています。また、ワークショップやシンポジウムも開催して、アートを軸に徳之島のことを島の方々と一緒に見つめ直したいと考えています。芸術祭会期外の活動として、公式サイトにて「徳之島ノート」と題して島の風習や環境などの紹介をし、現地事務局であるNPO 法人徳之島虹の会の活動を通し、島の動植物の多様さを学ぶ機会も設けたいと思っています。

### 母浜回帰

代表・宮本の両親が徳之島出身であることが、本プロジェクトの発端ですが、最近まで島ことをほとんど知らずにいました。徳之島の浜には多くのウミガメが産卵に来ます。ウミガメは広大な海洋を回遊し、自分の生まれた砂浜に帰って来て産卵します。なぜウミガメが自分の生まれた砂浜に戻ってくるのかは、まだ謎の部分が多いのですが、こうした産卵のためのウミガメの回遊行動を母浜回帰といいます。

このウミガメの生態は、私たちの生き方を根本からもう一度見つめ直す、原点に戻って基本を確認する、という思考の指標になるのではないのでしょうか。自然環境保護、希少野生生物保護ということだけでなく、人類がウミガメのような野生生物から学ぶべきことは、まだ数多くあるように思われます。夏はウミガメの産卵シーズンです。それに合わせて開催す

る夏会期の芸術祭のテーマを「母浜回帰」としました。アートが触媒となって、徳之島で自然や人間のあり方を、海を眺めながら考え直す機会にしたいと考えています。

### 島の自然と文化を未来へ

島の自然や文化を活かすような作品を島で生み出すことによって、島の環境を改めて見直すきっかけを作ること、そして、独自の文化を再認識することが、徳之島アートプロジェクトの目標です。しかし、芸術祭を開催することが最終目的ではなく、その過程で生まれるものや、その後の展開も考えて長期的なプロジェクトを目指しています。本プロジェクトが多くの人との出会いの機会をつくり、人の輪を広げながら徳之島の魅力を知ってもらうことで、自然環境へ配慮した持続性のある芸術文化施設と交流の場を構築し、最終的には環境整備や観光を通じた島の活性化を目指します。

また、アートを単に鑑賞するものとしてではなく、社会における知的・文化生産の重要な一部として捉える問い掛けもしていきたいと思います。このプロジェクトが、芸術活動や作品を通して文化を探究する、日本ではまだなじみの少ない芸術人類学の実践の場となることも目指しています。

知っているようで知らないこと、見えているようで見えてないこと。

自分にとっては当たり前の日常が、誰かにとってはそうでないこと。

視点をちょっと変えることで、新たに見えてくるのが沢山あるのではないのでしょうか。

2013年12月1日 徳之島アートプロジェクト実行委員会